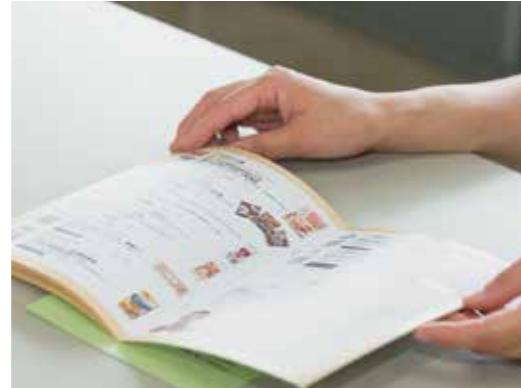


私も経験しましたが、アレルギーの子を持つお母さんは、自分の中で子どもが辛い思いをしていると自分を責めてしまい、一人で抱え込んで悩んでいることが多いです。私自身、「おしゃべり会」で、悩んでいることなど普段通じない話が通じた時には感動し、気持ちを分かってもらえたことに救われました。だから、会に参加しないで悩まずみんなで共有



ク」を活用して、災害が起きる前に知つておきたい情報などを広めています。

車いす生活になった当初、言いたいことを我慢して生活をしていたら、気持ちが縮こまり、声が小さく、いつも暗い顔をしている自分に気がつきました。私は、障がい者だからといって我慢せず、はつきり言い、自分のやりたいことを障がい者であることを理由に諦めることをせず、周囲に遠慮することをやめました。

体は病院で回復しますが、心の回復は、自らの力で外へ出て、輝く陽の下で多くの仲間と喋ることが、一番早く回復します。共に笑い、悩み、時には一緒に

全ての人に優しいまちを目指して



涙を流してくれる友はきっとあります。私たちは、その第一歩を踏み出すお手伝いができたらと思います。だから発信できることがあります。この活動を通して、障がい者間のコミュニケーションを図り、健常者の理解や応援を増やしながら、輪を広げていきたいです。

みなさんも心の中にある自ら作った見えない壁を取り払い、まずは心のバリアフリーから始めていただきたいです。

(取材・金田、藤本)

case 3



アレルギーを
知ってほしい

たなべりえ
田辺理恵さん

アレルギーっ子の会ぼれぼれ
代表

娘の食物アレルギーをきっかけに、アレルギーへの理解や災害時のアレルギー対策に取り組んでいます。



おしゃべり会



現在、災害時のアレルギー対

(取材・牧野)

命に関わること だから

てくださつたお母さんたちが、私が他のお母さんと話すことで気持ちが楽になつて、「参加して良かつた」と言つてもらえると、活動を続けていて良かったなどすごく嬉しいです。

食物アレルギーと言つても、原因のアレルゲンや度合いも違う子どもを持つお母さんが参加しているので、特定の人の話ばかりにならないように気をつけています。一人ひとりをフォローするのは大変ですが、参加者の想いが偏らなりようにやつていきたいなと思っています。

アレルギーの子どもを持つお母さんたちを繋げる場所は必要です。必要な人に情報を提供することも大切なので、いろんな情報収集もしていきたいと思っています。また、講演会やイベントを開催して、アレルギーについてたくさん的人に知つていただきたいので、細く長く活動を続けていきたいです。

策にも力を入れていて、自主防災組織や防災士の集まりなどで食物アレルギーについて説明を行っています。食物アレルギーの対応は、知識をきちんと理解すれば怖いものではないし、声をかけてもらうなど、ちょっとした配慮で助かるので、アレルギーに関する理解が広がつなければいいなと思っています。

「『はれはれ』の活動に参加して良かつたと思ってくれる人が増えることを願いつつ、頑張っています。



おしゃべり会



現在、災害時のアレルギー対

(取材・牧野)